

# 平成23年度 研修

## ①研修主題

友達とかかわり、つながり、ふかまる授業づくり

## ②主題設定の理由

平成22年度から、研修主題を「友達とかかわり、つながり、ふかまる授業づくり」と定め、「友達とのかかわり」による「学びの深まり」を大切にした授業をめざし研修してきた。授業で大切にしていきたいのは、「自分の考えを伝える」「友達の考えを聴く」といった伝え合いだけでなく、それを通して、自分一人では気づかなかった考えに出会い、「学びが深まっていく」ことであると考えからである。

昨年度、本研修主題にせまるために各学年に応じた手立てを考え、実践してきた。その結果、主体的に自分の考えを伝えたり、友達の考えを聴いたり、「友達とかかわる」部分では成果が見られた。しかし、「つながる」「ふかまる」部分では、まだまだ不十分であるという課題が残った。

今年度から完全実施となる新学習指導要領では、思考力・判断力・表現力の育成が重要視され、そのための「言語活動の充実」が教育活動全体で必要とされている。そこで、本校の研修主題にせまるための重点「『つながる』ための手だて」を「言語活動の充実」とする。「言語活動の充実」を考えていくことが新しい学習指導要領で求められている学力への理解に通じると考えるからである。

さらに、「言語活動の充実として工夫した手だて」が子どもの学びとしてどうであったか丁寧な「みとり」をし、新しい学習評価の観点に照らし合わせて授業をふりかえる。学習評価を通じて教師自身が授業をふりかえり、授業改善を意識していく。それがわたしたちに求められている「指導と評価の一体化」を進めることになる。

一年の研修を終えたとき、「言語活動の充実を考えることで新しい学習指導要領や指導要録（学習評価）について見えてきた。」「子どもの姿をみとりながら子どもとともにつくる授業を意識できるようになった。」と実感できるような研修をしていきたい。

### 「つながる」を充実させていくための条件

#### ①学級づくり

どんな意見でも安心して発言できる雰囲気づくり、自分と違った意見を受け入れる人づくりが何よりも大切である。授業作り＝学級作りと捉えたい。

#### ②「楽しい」「考えたい」「話し合いたい」と思える授業の展開

導入の工夫や学習課題の工夫が大切である。これには、子どもが持っている疑問を取り上げたり、ふりかえりを活かしたり、「え？」「どうして？」と思える発問をしたりすることが必要である。

#### ③意見がつながるように仕組む

教師が子ども一人一人の考えを把握していることが大切となる。これには、机間巡視のあり方、前時のノートや振り返りの活かし方を考えていく必要がある。また、つながりの見える板書の工夫も大切である。

## 目指す姿

### つぶやき・発言

「楽しそう。」「おもしろそう。」「やりたい。」「考えてみたい。」 → 導入・課題の工夫

「〇〇さんと同じで・・・。」  
「〇〇さんにつけたしで・・・。」

賛成・つけたし

「え～?」「そうかな～。」「でも・・・。」  
「〇〇さんはそう考えているようだけど、ぼくは・・・。」

反対

話し合いの充実

「ちょっと聞きたいんだけど・・・。」  
「〇〇さんに質問で・・・。」

質問

かかわる  
つながる  
ふかまる

「そうか。」「なるほど。」「わかった。」「できた。」  
「それなら・・・。」「だったら・・・。」 → ふかまり・発展

「〇〇さんはこう考えているんだね。」「〇〇さん、すごい。」

### 態度・しぐさ

一生懸命考える。自分の考えを書く。  
(話を聞きながら)うなづく。首をかしげる。メモをとる。

「みんなと勉強してよかった。」  
「みんなと勉強するのが楽しい。」

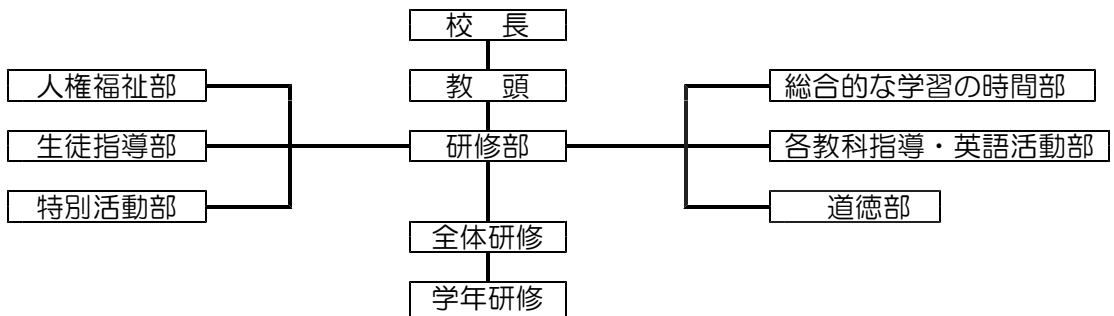
こんな声、こんな様子が  
多くの子にも見られる  
授業を目指していきたい。

→

そのためにどんな手立てを  
とっていくのか、個人・学  
年・全体で研修していく。

- ③ 窓口教科  
・学年で話し合い窓口教科を決定する。

- ④ 研修組織  
・研修部を中心に、各教科指導、英語活動部・道徳部・総合的な学習の時間部・国際理解部・生徒指導部・特別活動部など全教育活動と連携し、研修を進める。



⑤ 研修構想図  
学校教育目標



⑥ 研修計画

	前 期	後 期
全体研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本年度の研修の捉え方や方向性の決定</li> <li>○研究授業の事後研修</li> <li>○前期の反省</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○後期の具体的な取り組みの検討</li> <li>○研究授業の事後研修</li> <li>○1年間の反省、次年度の研修の方向性の検討</li> </ul>
学年(団)研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>○前期の授業の具体的な進め方の決定</li> <li>○研修主題を達成するための場の設定や、手立ての実践・検討・修正(教材研究)</li> <li>○研究授業の計画、準備(該当学年)</li> <li>○一人一授業の参観と事後研修</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○後期の授業の具体的な進め方の決定</li> <li>○研修主題を達成するための場の設定や、手立ての実践・検討・修正(教材研究)</li> <li>○研究授業の準備、計画(該当学年)</li> <li>○一人一授業の参観と事後研修</li> <li>○1年間の反省</li> </ul>
研修部	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本年度の研修の捉え方や方向性の検討</li> <li>○指導案形式の検討</li> <li>○研究授業への協力</li> <li>○学年(団)研修の推進</li> <li>○研修のまとめ方の検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○研究授業への協力</li> <li>○学年(団)研修の推進</li> <li>○研修のまとめ作成</li> <li>○次年度の研修の方向性の検討</li> </ul>

⑦ 校内研究授業

全体研修について

- ・研究授業は4学年、市教委訪問での授業を2学年が行う。  
おおよそ学級は、一斉研で行う。
- ・研究授業は5校時に行い、事後研修はその授業が行われた教室で行う。
- ・板書を残しておき、事後研修で活用する。
- ・指導案に、研修の重点に照らし合わせた視点を明記する。
- ・事後研修で明らかになった課題を次の研究授業に生かしていく。
- ・事後研のもち方については、今後話し合っていく。

一人一授業について

- ・学年研修の一環として一人一授業を行う。
- ・2日前には指導案を配布するようにする。
- ・校長・教頭・学年部が授業を参観し、事後研修を行う。
- ・授業の様子をビデオで撮影し、事後研修で活用したり、授業を参観できなかった人が見たりすることができるようにする。ビデオで自分の授業を見ることで反省点がいろいろと見えてくる。
- ・事後研修に参加できない人は、感想を書いて授業者に渡す。
- ・事後研修で話し合ったことや成果、課題をまとめ、参観者の感想と共に、全員に印刷配布する。
- ・1人1授業や研究授業に限らず、普段から授業を参観し合うことで校内研修の充実を図っていく。

⑧ その他

- ・ハンドサインを取り入れる学級は、以下のように統一する  
 パー…新しい意見など  
 チョキ…つけたし  
 グー…ちがう、反対